

タクシーの運転手さんオススメ! 沖縄ワールドへ

タクシーの運転手さんが、「スーパーエイサーショーをぜひ見てください」と、オススメしていただいたので行ってきました。撮影禁止でしたので、残念ながら写真はありませんが、太鼓と演舞がとても迫力があって感動しました。

他にも、国内最大級の鍾乳洞「玉泉洞」、「ハブとマンガースのショー」がありました。



ぎょくせんどう「玉泉洞」へ!
全長約5km、鍾乳石の数は約100万本以上と国内最大級の鍾乳洞です。

おきなわワールド

番外編

花本隆資の夏休みin沖縄 大名祝二十周年目 突入記念さぶらいず あっばね!



大名を20年守り続け、スタッフ、そしてスタッフの家族をも、我が家族同様に守ってくれたことへの感謝を伝える為、サプライズで開催しました!!皆で隆資Tシャツを着て、「ライブ&沖縄料理ライブハウス島唄」へ。(ここではネーネズというバンドが生歌ライブを披露してくれます。)全員が隆資Tシャツを着ているのを見て、「俺も着たかったわ〜」と恥ずかしそうな社長(笑)ネーネズファンの社長も気持ちよさそうに、カチャーシーを踊っていました。途中、ネーネズの人から、「暑いTシャツを着てますね〜」と話しかけられて、喜んでいました。ひとまず、最初のサプライズは成功しました。



続いて場所を変えて、カラオケへ...



姪っ子3姉妹から歌のプレゼント♪



ここで、社長にも隆資Tシャツ&オリジナルボトルのウィスキーをプレゼント



最後は奥様とむった君(息子)より感謝のお手紙を、感動しすぎて、社長は大号泣。そして皆も大号泣でした!!



帰り道、通りすがりの人からめっちゃ見られて数人に声掛けられました(笑)まんざらでもないさぞうな社長。最高の思い出ができました♪

学びあり、遊びありの4泊5日の沖縄研修旅行、本当に楽しかったです。こうして私達スタッフ、家族ともども沖縄へ来られたのは社長の懐の広さがあったこそ。これからもキレッキレの社長として、そして最高のパパでいてください。ありがとう社長。これからもどうぞ大名、大和魂を宜しくお願い致します。

经营理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します



社員旅行 in 沖縄

OKIONAWA

こんにちは!花本隆資です。皆様、いかがお過ごしでしょうか?今号では7月に社員旅行で訪ねた沖縄についてお話させていただきます。5年前、沖縄を訪れた際、沖縄平和記念資料館に行きました。そこで生々しい沖縄戦の体験記を沢山読む機会がありました。日本軍の軍人だけでなく、軍人ではない沢山の沖縄の方々が戦争に巻き込まれ、被害に遭われた体験記でした。沖縄戦は軍人の死者数を沖縄の一般住民死者数が大きく上回る大規模な戦闘でした。歴史を発信するタイムマシーン企業として沖縄戦の勉強を皆としたいと思い、ようやくこの度、実現することが出来ました。今号を通して、少しでも平和へ繋がれば嬉しく思います。



沖縄の歴史

1429年に尚巴志王が統一し、成立しました。中国、日本、朝鮮、東南アジア諸国と貿易をする王国でした。1609年(江戸時代)に薩摩藩が軍事侵攻し、表向きは中国の支配下でしたが、薩摩藩・徳川幕府の従属国になりました。1879年(明治12年)に琉球藩を廃して沖縄県が設置されるまで、琉球王国という国でした。1945年、沖縄戦後、1972年に日本本土復帰までアメリカ合衆国に27年間、統治されました。

市場に、見たことのないお魚とヤシガニ



琉球は元々、流求という漢字だったそうです。中国の支配下に入ったことで、中国王朝の「王」を下賜され、琉球に変化したそうです。琉球とは対外的、政治的に使用されたもので、現地の人は「お(う)きなわ」と呼んでいたそうです。



~国際通りにて~

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。 件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。

最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>

有限会社 大名

広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

こんにちは、中堀明美です。
 皆様いかがお過ごしでしょうか?10月になり秋を感じる季節になりましたね。
 今年の夏も猛暑でしたね!社員旅行&サプライズ周年行事で、沖縄に行ってきました~!!
 初めての飛行機にワクワク、ドキドキな子供達♪

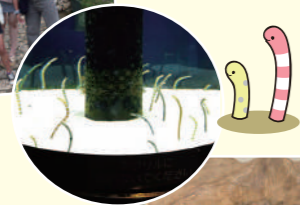
1日

~美ら海水族館にて~

沖縄のサンゴ礁や、おもしろい特徴をもつ魚が沢山いました。ジンベエザメが優雅に水槽を泳いでいる姿が、とても印象的でした。その中でも、やっぱり一番は「チンアナゴ」。ユラユラと伸びたり、縮んだり動きがなんとも言えず可愛かったです。弾丸とはいえ、たっぷり楽しみました。

社員旅行プラン

- ・弾丸水族館 四泊五日
- ・沖縄の海を満喫
- ・沖縄研修 (沖縄戦を学ぶ)
- ・番外編



お魚 いっぱいー!!!

マンタさんに 食入られたい?



鯨の口大きいね!!

夜遊びもいっぱい

海ぶどう、うらなま♡

天の川食堂で楽しく飲んで、騒ぎました。「カチャーシー」は、テンポの速い沖縄民謡の演奏に合わせて手を振る踊りの事です。沖縄方言の訛で「かき回し」という意味で、頭上で手を左右に振るさまが、かき回すように見えるため呼び名がついたそうです。お姉さんの歌に合わせて皆でカチャーシーをしました。とっても楽しい沖縄一日目の夜でした!



夜は皆で 宴だー!!

2日

~沖縄の海にて~

沖縄といえば、やっぱり海!!! 青の洞窟体験、魚の餌やり体験、マリンスポーツを満喫しました! 洞窟の中だけ海の色が違い、神秘的でした。



魚がこんなに近い!



海の中、気持ちいいね~



青の洞窟! めっちゃ綺麗!!

この日は泳ぎ疲れしました。明日はいよいよ沖縄研修です! 日焼け対策も忘れずお休み下さい!

3日

沖縄研修

~沖縄県営平和祈念公園にて~



沖縄戦とは太平洋の島々を奪った米国は、次に沖縄を占領して、日本本土を攻めるための前進基地として使おうと考えた。これに対し日本は、日本本土を守るため、沖縄になるべく米軍をひきとめて時間をかせぐ「持久戦」の作戦をたてました。最初の大きな被害は1944年10月の「10・10空襲」で、死者は軍人と民間人あわせて668人。アメリカ軍の機動部隊は5回にわたって激しい空襲を繰り返しました。攻撃の目標は軍事施設だけではなく、病院などの民間施設も対象となってゆき、事実上の無差別攻撃でした。特に被害の大きかった那覇市は、約90%が焼失してしまいました。1945年3月末から6月末にかけて、日本軍とアメリカ軍が沖縄本島を中心に激しい軍事衝突をしました。「本土防衛」を目的に日本軍の基地や陣地が沖縄本島や離島に建設され、日本軍の戦争準備には多くの県民が駆り出されました。そこへ米軍が上陸し、戦場となっていったのです。この頃から

約3カ月にわたる戦いを「沖縄戦」と呼びます。米軍は後方支援も含めておよそ55万人、日本軍はおよそ10万人。武器の量や性能をあわせた戦力の差は米国が日本の10倍以上でした。日本軍10万人のうち2万数千人は、沖縄にいる一定の年齢の男子を急きよ兵隊として集めてつくられた「防衛隊」や「義勇隊」、「学徒隊」は、今の中学生や高校生くらいの生徒たちでつくる「学徒隊」でした。この戦いで、多くの兵士が戦死。一般住民も戦闘に巻き込まれ、犠牲者数は、戦死した兵士の数を大きく上回り、幼い子どもたちも亡くなりました。日本は米国の15倍亡くなったとみられています。そして、県民の4人に1人が亡くなったといわれています。いまの日本で、このように軍人よりも住民の命が多く失われたのは沖縄だけだそうです。沖縄など南西諸島の日本軍が全面降伏に調印したのは9月7日でした。

平和資料館で一番驚いたのは、日本兵に命を脅かされたり、スパイとみなされ、実際に命を奪われたりした人たちが沢山いることでした。私たちが住んでいる広島県にも原子爆弾が落とされました。一瞬で命が無くなった事、戦争の悲惨さを小さな頃から教わってきました。そんな中でも、日本兵に殺されたなどの話は聞いたことがありません。沖縄戦では防空壕に非難しても赤ちゃんが泣けば日本人同士が、米兵に見つかると泣き声を非難し、口を塞ぎ死に至らした...と書いてありました。何とも言えない感情になり、心が苦しくなりました。



中堀

未だに不発爆弾が、本土にあり、全てを取り除くのに50年かかるという事に驚きました。何も持たない住民が、米兵に見つかれば何をされるかわからないから集団自決を余儀なくされる状況等が書かれた沖縄戦体験者の証言文から、目が離せなくなりました。娘たちと一緒にページをめくり、「絶対に繰り返してはいけないね」と話をしました。決して忘れてはならないことで語り継いでいかねばいけないと思いました。



島谷

ひめゆりの塔にて

看護要員として戦場に動員され、亡くなっていった「ひめゆり学徒隊」の慰霊塔。慰霊塔の前に穴があいている洞窟が沖縄陸軍病院第三外科壕跡。洞窟や壕のことを沖縄の方言で「ガマ」と呼ばれています。ひめゆりの塔があるガマには当時、ひめゆり学徒を含む病院関係者や住人などおよそ100名がおり解散命令後の6月19日に米軍のガス弾攻撃を受けて80人余りが亡くなられたそうです。



ガマ



「ひめゆり」の名前の由来は、沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の校友会誌「姫百合」からです。最終的にこの学校の生徒211人と教師16人、計227人が沖縄戦で命を落としました。資料館には、ひめゆり学徒隊の犠牲者の遺品や、学徒と教師たちの鎮魂、一人ひとりの命の大切さ、生きた証として展示されていました。10代の女の子たちが仲間を銃で撃たれ、海に逃れながらも溺死、手りゅう弾で自殺...地獄を見なければいけなかった悲惨な時代があった事を、改めて知りました。同じ世代の子供達は、今では考えられない事ばかりで、複雑な表情をしていました。

息子が当時小学5年生の時、広島市の平和資料館へ行き戦争を学びました。酷い火傷の後や悲惨な写真を見て、思わず目を背けていました。中学生になった息子は目を背けず、生徒達が残した「鎮魂」を読み、戦争についてしっかりと学んでいました。今の学校では、私たちの時代よりも更に戦争について学ぶ機会が減りつつあります。資料館で見たものは、写真や証言など真実にせまるものがあって、重く心に残りました。私は戦争を知りません。ですが平和資料館で、私なりに得た知識を次の世代に伝えていこうと思いました。本当に憎むべきものは人ではなく、戦争だと感じました。改めて平和の大切さを知りました。



中堀

沖縄陸軍病院に集められ、寝る間もなく、ただ死傷者の為に尽くしていたひめゆりの生徒たち。常に死の瀬戸際に立たされ、さらには命をかけてご飯を壕の外へ取りに行かないといけなかったという事に驚きました。「解散」命令が出たにも関わらず、米兵に何かされるのではないかと怯え、壕から出られず、どこにも逃げ場のない状況を考えるだけで胸が苦しくなり怖くなりました。



島谷